



第129号
野毛山幼稚園
横浜市西区老松町30
TEL.045-231-0150

キリストの平和が
すみずみにまで
ゆきわたりますように

野毛山キリストの教会牧師
野毛山幼稚園園長

奈良昌人

「実際に、キリストはわたしたちの平和
であります。」

(エフェソの信徒への手紙2章14節)

去る6月28日、29日には、野毛山幼稚園創立73年を感謝して、子どもたちと保護者の皆さんと一緒に礼拝を献げることができましたことは、真に喜びのことであり、改めて神さまに感謝いたしました。73年を振り返ると、大きな変化が幾度かありました。ランチを始めたこと、宗教法人立から学校法人立に移行したこと。3年保育が始まったこと。預かり保育を始めたこと。そして今年度、私学助成の園から新制度の施設型給付の幼稚園に移行したことなどです。このような変化は人間の知恵ではなく、神さまの導きがなくてはなし得ないもので、その時々になされた祈りには、次の祈りがありました。

神よ！
変えることのできないものは、それを受け容れるだけの心の落ち着きを与え給え。変えることができるものについては、それを変えるだけの勇気を与え給え。そして、変えることのできるものとは、見分ける知恵を授け給え。

(ラインホルド・ニーバーの祈り)

この祈りは、アメリカの神学者、倫理学者ラインホルド・ニーバー(1892-1971)がマサチューセッツ州西部の山村の小さな教会で1943年の夏に説教したときの祈りで、その元は18世紀の神学者エティンガーの祈りとも言われます。第二次世界大戦の中、この祈りが書かれたカードが兵士たちに配られたそうです。戦争のさ中において、「神よ！ 見分ける知恵を授け給え」と、神の御心を祈り求めたのです。

ロシアの独裁者によるウクライナ侵攻が始まってから、兵士と一般人を含めて35万人以上が犠牲となつています。その中には子どもも含まれています。この21世紀に、まったく信じられないことが起き、未だ終わりが見えません。幼稚園の子どもたちもテレビ画面で、逃げ惑う人たちやミサイルがビルを破壊する様子などを目にする事があると思います。戦隊ヒーローもののテレビ番組ではなく、本当に起きている戦争の悲惨さを目にしているのです。この子どもたちがおとなになる時には、誰にとっても平和な世界となつていくように、侵攻が止み、戦争の一刻も早い終結と平和を子どもたちと共に祈らずにはいられません。ご家庭でも、戦争の報道などを目にした機

会などに、子どもたちに戦争の悲惨さと平和の尊さをやさしくお話してはどうでしょうか。こんな話が紹介されていました。

年中組の女の子が「戦争をすると色がなくなる。全部茶色になるんだよ」と話していたのを保育者が耳にしました。そしてその時に一緒にいた子どもが礼拝で「神さま ウクライナにお花がたくさん咲きますように。アーメン」とお祈りを見ました。改めて武力侵攻の写真をみると、確かに色が無いのに気づかされました。：色が無い：子どもからしたらそれだけで悲しさや虚しさは伝わってくることでしょう。これは子どもの素直な感性ならではの着眼点なのかもしれません。『おはなしのこみち 夏』より
(一般社団法人キリスト教保育連盟)

この子どもの感性には神さまの知恵が示されていることは間違いありません。私たちおとなは子どもから神さまの思いを知らされるのが多々あるのです。イエスさまは、「子どもたちをわたしのところにこさせなさい。神の国はこのような者たちのものである。」と、子どもたちこそ神さまのみに相応しい存在であることを示されました。そのイエスさまは「わたしたちの平和です」。

♪キリストのへいわが
わたしたちのこころの
すみずみにまで
ゆきわたりますように

(『こどもさんびか改訂版34』)

戦争の終結と、人々の苦しみが一刻も早く癒されることを祈りつつ夏休みを過ぎましょう。